

平成18年度の実績

ベルマーク教育助成財団の平成18年4月1日から平成19年3月31日までの第15期第3年度の実績は次の通りです。

(1) 参加団体の集票点数

平成18年4月から平成19年3月までの1年間の集票点数は4億2287万8055点で計画点数を約1700万点下回りました。平成17年度の実績と比べると、約330万点強の減少です。減少率は1%未満と極めて小幅になってきており、底入れが近いことを示しています。運動開始以来の累計は224億9591万余点になります。

(2) 設備購入金額

ベルマーク資金で学校がこの1年間に設備品を購入した金額は4億8802万0304円でした。累計は209億7830万9144円になります。

(3) 参加団体数の変動

この1年間に参加団体は139増え、平成19年3月末現在、28,353に達しています。世帯数では、約919万世帯になります。参加児童・生徒数は約1,044万人です。なお、参加幼稚園・保育園は5,283園です。

年度末の学校種別（幼稚園を除く）の参加数、参加率と増加数は次の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増加数)
小学校	15,072	22,878	65.9%	35
中学校	6,780	10,992	61.7%	27
高校	1,197	5,385	22.2%	5

(なお、大学は6、公民館は15)

(4) 教育助成事業

平成18年度は、次のような設備品などを、国内と海外の援助対象に贈りました。(援助金額の1万円未満は四捨五入)

[国内援助]

へき地学校＝100校に視聴覚備品やスポーツ用具、少年少女向け年鑑を贈りました。都道府県教育委員会に援助対象校の選定を依頼し、財団から対象校に贈呈品リストを示して、希望の教材備品を選んでもらいました。

このほか、教育援助（ソフト援助）として14校を対象に一輪車の一流選手による講習会を実施しました。また、15校を対象に理科の実験教室を開催しました。劇団「東少」による児童向け演劇公演「ベルマーク劇場」は全国3ヵ所で開催しました。平成14年度にスタートした「走り方教室」は東京、大分など4校で、イラス

トレーターによる絵画教室（お絵かき体験塾）は6校を対象に、それぞれ実施しました。

養護学校＝20校に希望する教材備品類を贈りました。

盲学校＝71校にデジタル録音図書読書機を贈りました。

ろう学校＝13校に教材提示装置を贈りました。

病院内学級＝4校の病院内学級に対してパソコンと自学・自習システムを贈りました。

平成18年10月の第9回アジア太平洋地域聴覚障害問題会議（APCD2006）の開催に対して100万円を資金助成しました。

[海外援助]

(1) 日本人学校

13の日本人学校・補習授業校に希望の教材備品を贈りました。

(2) 発展途上国援助事業（括弧内は実施団体）

アフガニスタン教育復興（日本ユネスコ協会連盟）	300万円
スマトラ沖大地震・大津波被災者支援（ジョイセフ）	200万円
ラオス・カンボジアに絵本を届ける事業（シャンティ国際ボランティア会）	150万円
カンボジア教育整備（日本ユニセフ協会）	100万円
ラオスの学校に図書室を作る事業（ラオスのこども）	100万円
途上国に緑を『子供の森』計画事業支援（オイスカ）	200万円
東ティモール保健教育支援（シェア＝国際保健協力市民の会）	200万円

[友愛援助]

平成17年度に呼びかけた第8回友愛援助に対して181校から394万円の拠出の申し出があり、これに財団の資金を加え総額900万円の事業費で、以下の5事業を18年度の「友愛援助」として実施しました。

「アフガニスタン教育復興」「スマトラ沖大地震・大津波被災者支援」「カンボジア教育整備」「ラオスの学校図書室整備」「途上国に緑を『子供の森』計画支援」

[表彰事業]

朝日新聞社の「朝日のびのび教育賞」の副賞として5学校・団体に各20万円を贈呈しました。

[山古志小・中学校再開記念激励援助]

平成16年秋の新潟県中越地震で被災した山古志小・中学校が平成18年10

月30日に再建され、再開を記念して小学校と中学校に赤外線暖房機やスポーツ用マットレスなど各50万円相当の教育備品を激励援助として贈りました。

(5) 協賛・協力会社

協賛会社のカルピス株式会社が平成18年9月末に脱退し、19年3月末で協力会社の株式会社コトブキ、松下電器産業株式会社が脱退しました。平成18年9月1日には株式会社イーイーアイが、19年4月1日からは住商フルーツ株式会社が協賛会社として参加しました。また、協賛会社の旭硝子株式会社が19年4月1日から協力会社としても参加しました。この結果、4月1日現在での協賛会社は60社、協力会社は20社です。

以上